

ハートフル・とよひら

札幌市立かっこう幼稚園

～今年度の研究のまとめ～

研究主題 『質の高い幼児教育の実現に向けて

～つながる ひろがる 札幌市の幼児教育』(研究実践園共通主題)

副主題 『多様な教育・保育環境における幼児期にふさわしい生活のために』

(清田区研究実践園「にじいろ」と共通)

本園では、今年度より上記の研究主題・副主題のもと、

『心を動かし、思いをもって遊び込む幼児を育むための 教師の援助・環境の構成について探る』

をテーマ(『研究の重点』)として研究に取り組んできました。(3年計画)

1年次目の今年度は、“**幼児の心を揺さぶる教師の関わりや環境の構成**”と“**異年齢児との関わり**の充実”をポイントに置いて、各学年の実践事例研究を進めてきました。その中で分かってきたことをお知らせいたします。

《研究の成果》

① 幼児にとって…

- *子どもから「〇〇したい!」と思いを表す姿が増え、自己を発揮するようになってきた。
- *“用意されたもので遊ぶ姿”から、“遊びに必要なものを考えて自分で作る姿”に変わり、自信につながってきた。
- *うまくいかないことでも、諦めないでやり続けるようになってきた。
- *「やり遂げた!」という経験が、別の遊びでも思いをもって取り組む姿につながり、友達との関わりに広がりや積極性が見られるようになってきた。
- *遊びが下の学年にも伝承されたり、異年齢の友達との関わり方を意識しながら一緒に遊んだりするようになってきた。
- *施設見学(青少年科学館や消防署)、買い物体験、公共交通機関(地下鉄など)の利用などの共通体験が、遊びの広がりや友達と楽しさを共有する姿につながってきた。



② 教師にとって…

- *教師から見て「うまくいかないのでは?」と予想できることも、“幼児のやりたいことをまずはやらせてみる”経験の保障と、(教師から)「こんなやり方もあるよ」と提案すべきかどうかの見極めが大切だと分かってきた。
- *“異学年の遊びに気付かせる”“モノの置き方を工夫する”など、幼児が「おもしろそう!」「やってみたい!」「これを使って遊びたい!」と心を動かすような働きかけを意識するようになった。
- *担任間での事前の打合せの他、他学年の遊びに加わる仲立ちやそれを受け止める側の教師の存在など、異年齢の幼児同士をつなぐ教師間の連携が深まってきた。
- *3年間の育ちを見通した“環境の出し方”や“教師の関わり方”の違いが見えてきた。(※裏面の「各学年で具体的に見えてきたこと」欄を参照)
- *「遊びの中で構成した場や環境をどこまで残すか」という見極めも大切。
- * (コロナ禍の中でも可能な限り)施設見学や買い物体験など地域の人や環境を生かす教師の意識が高まった。

『心を動かし、思いをもって遊び込む幼児を育むための
教師の援助・環境の構成』とは？
～各学年で具体的に見えてきたこと～

☆；幼児にとって大切な経験
⇒；教師の援助と環境の構成

< 3歳児 >

- ☆空想の世界を存分に楽しむ
- ☆自由に見立て、感じたことを動きや言葉で表現する
- ☆思いを教師に受け止めてもらう
 - ⇒幼児のイメージに寄り添い、一緒になっておもしろがる関わり
 - ⇒遊びをリードし過ぎず、幼児の思いや発想を生かす
 - ⇒幼児のワクワク感を引き出すような共通のアイテムの導入
(ex;探検ごっこの“手作り望遠鏡”など)



3歳児～洗濯ごっこ～
今日も洗濯日和♪鬼やヒーローなど、好きな役になったつもりでごっこ遊びを楽しんでいます♪



4歳児～消防ごっこ～
消防署見学の経験から、消防車や衣装を作り、気分はすっかり消防隊員。友達と楽しさを共有しています♪

< 4歳児 >

- ☆見た目が本物らしくなくても、イメージを自由に表現したり、見立てたりする
- ☆自分なりの方法でやってみる（自分で“考える”“作る”など）
- ☆自分の遊びに興味関心をもってくれる友達との出会い
 - ⇒「こんなやり方もあるよ」とアイデアや遊び方のモデルを示すか、その子なりの発想で遊ぶ姿を見守るかの見極め
 - ⇒幼児の先行経験を生かし「どこに楽しさを感じているか」という内面の見取りと環境の工夫 (ex: “掃除グッズ” など生活に身近な要素を取り入れる)
 - ⇒好きなことやイメージの世界を一緒に楽しんでくれる友達と出会うきっかけ作り (異年齢児も含めて)



< 5歳児 >

- ☆友達と「〇〇したい」という目的を共有し、協力することを楽しむ
- ☆気付きや疑問を確かめ、分かっているおもしろさを感じる
- ☆友達の思いを聞いて葛藤したり、折り合いを付けたりする
 - ⇒幼児の関心の矛先が変化しても受け止め、次の経験につなげていく柔軟な教師の関わり
 - ⇒遊びのイメージや目的、確かめたいことを友達と共有しやすい環境の工夫 (視覚的に分かりやすい教材づくりなど)
 - ⇒新たなイメージや目的を生み出す幼児の心を揺さぶる言葉がけ
 - ⇒主張の強い子だけではなく、一人一人の思いを引き出す関わり
 - ⇒いざこざ場面で、誰かを責める形にならない仲立ちと解決方法を自分たちで見出せる方向付け



5歳児～迷路屋さん～
全学年で楽しめるよう『わくわくランド』を企画。仲間と共通の目的に向かって取り組みました。

～ 次年度の研究に向けて ～

札幌市教育委員会では、札幌市の幼児教育の現状と課題を受け、令和2年5月に「市立幼稚園の今後の在り方に関する方針」を策定し、『5つの基本施策』を実施しています。その中で、本園は、**施策①**である「時代に即した幼児教育の展開」として、「多様な教育・保育環境における幼児期にふさわしい生活のために」という研究副主題を受け、清田区の札幌市立認定こども園にじいろと共同で研究を進めているところです。

その中で、「**預かり保育を通じた長時間保育**」も含めて研究を進めており、今年度は2園共通の研究アドバイザー（札幌国際大学；木村彰子先生）にご助言をいただきながら取り組んできました。（今年度の取組は、研究便り『ハートフル・とよひら』No.4をご参照ください。ホームページでもご覧いただけます。）

次年度は、今年度の成果を生かし、『**“預かり保育”も含めた幼児期にふさわしい生活**』について、認定こども園にじいろとの連携を深めながら研究を進めていきたいと思います。